

## 2019年度 地域貢献研究助成費 実績報告書

2020 年 3 月 10 日

報告者	学科名	保健福祉学科	職名	准教授	氏名	周防美智子
研究課題	地域子育て支援拠点を活用した児童虐待予防プログラムの構築					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	周防美智子	保健福祉学科・准教授	子ども家庭福祉	研究総括・研修会・調査・プログラム作成	
	分担者	中典子 地域子育て支援拠点施設長 7名	中国学院大学・准教授 総社・倉敷地域子育て支援拠点	児童福祉 子育て支援	プログラム作成 研修会・調査・プログラム作成	
研究実績の概要	<p>岡山県の児童虐待の発生予防、早期対応を目的に、地域子育て支援拠点の活動に注目した児童虐待予防プログラムとして、連携アセスメントシートの作成を行った。</p> <p>2017年度の全国児童相談所での児童虐待相談件数は過去最多となり、岡山県においても増加している。児童虐待の発生予防は、出産前後から子育て家庭に関わった早期の子育て支援が必要である。母子保健における母親教室や新生児訪問、乳幼児健診などもあるが、対象を制限せず（全子育て家庭）、子育て家庭の親子を継続的に、地域のネットワークの中で支援していく場所として地域子育て支援拠点への活動がある。地域子育て支援拠点では、母子保健事業につながるまでの児童虐待予防や早期発見の子育て支援が行える。そこで、地域子育て支援拠点の機能や視点を活かした、児童虐待の予防、発見のプログラムが必要である。</p> <p>平成29年度地域貢献研究助成費による『地域子育て支援拠点の支援効果についてアンケート調査』結果、地域子育て支援拠点の支援が、子育て不安や孤立感の軽減、子育て家庭の安定に好影響している一方で、「情報の可視化」、「連携」について課題が明らかになった。また、調査回答者からは「地域子育て支援拠点での気づきを根拠づけて説明ができない」、「スタッフ間で何を基準に共有を始めればいいのか分からない」、「親子のどこを観察すればいいのか分からない」、「連携の指標がほしい」という要望があった。</p>					

※ 次ページに続く

研究実績  
の概要

そこで、『情報共有の可視化』、『連携の指標』をキーワードとして、地域子育て支援拠点のアセスメントのための観察視点や連携のためのスクリーニング視点を取り入れたチェックシートとして『地域子育て支援拠点連携アセスメントシート』の作成を研究メンバーで目指しました。作成にあたり、地域子育て支援拠点のスタッフの方を研究メンバーとした研究会を月1回開催した。さらに、県内子育て支援拠点のスタッフを対象とした研修会を3回開催しました。研修会は、子どもや家庭の理解を深めることを目的に「子どもの発達」、「愛着障害」、「家族システム」をテーマに、講義での話題提供とグループワークを実施しました。また、地域子育て支援拠点の役割の再確認、児童虐待予防や連携を研修会のテーマとリンクさせて行った。

月1回の研究会で、研修会のグループワークの内容や日頃の支援状況、前回の調査結果などから「子どものようす」、「親のようす」、「家族・家庭のようす」に関するキーワードを抽出し、何度も見直し検討を重ねた。さらに、チェック項目の共通理解について、スタッフの方にチェックをしてもらい修正を行った。地域子育て支援拠点の視点におけるアセスメントのための情報整理や連携の指標となるチェックシート（子ども・親・家族・家庭のようすの項目）『地域子育て支援拠点連携アセスメントシート』を作成した。

本研究の成果は、岡山県の児童虐待の予防、早期発見に役立つだけでなく、地域における子育て支援の向上にも貢献できたと確信する。

《地域子育て支援拠点連携アセスメントシート 子どものようすより一部抜粋》

子どもらしくない髪型にしている (カラー・ツブロック・イナヅマ、マニキュア)		
清潔にしてもらっていない(髪の毛・顔・体・服)		
長時間おむつを換えない		
虫歯が多い		
偏食がある		
就寝時間が遅い		
こだわりがある		(何に対して)
気持ちの切り替えができない		

	児童虐待(不適切なかかわり)によって見られやすい様子や状況です。→子どもの生活面・親のようすにチェックが多い場合やDVが見られるときは、他機関と連携することが望ましいです。
	児童虐待(不適切なかかわり)・発達の課題によって見られやすい様子や状況です。 →チェックが多い場合は、他機関に相談しましょう。
	気になる様子(状態)で、継続的な見守りが必要です。 →チェックが継続するようなら、他機関に相談しましょう。

成果資料目録

冊子：『地域子育て支援拠点連携アセスメントシート』  
【各市町村・地域子育て支援拠点に配布予定】